

## Windows XP サポート終了に伴う自動更新トラブル回避策

XP のサポート終了後でも自動更新のエージェントを活かしておけば、数年間は XP の周辺プログラムのアップデートが出来たのですが、最近はそれも無くなりました。

これと同時に、パソコンの CPU が何かのプログラムに占拠されてしまい、シングル CPU のマシンはほぼハングアップ状態、ダブル CPU のマシンでも CPU がひとつ占拠されてとてもじゃないが「マトモ」とは言えない事態になります。

こちら（ユーザー）としては XP だろうが「7」だろうが「マトモ」に動いてくれればいいわけで、マイクロソフトの都合に合わせる気などさらさらありません。

注：OS を XP から「7」にしたからといって OS の脆弱性が改善されるとは思えません。  
「7」のアップデートプログラムはしょっちゅう出ています。  
しかもそれらのプログラムが本当に役立っているのかどうかは不明です。これは XP でもそうでした。

さてトラブル回避策ですが、まずはデスクトップ画面下のバーでアイコンの無いところを右クリック、「タスクマネージャ」を起動します。  
次に「パフォーマンス」タブで「CPU 使用率」をチェックします。これが 0% なら問題は全くありません。  
しかし使用率が 99%（1CPU タイプ）、50%（2CPU タイプ）なら「プロセス」タブでどのプロセスが CPU を占有しているか確認します。  
ここでは「svchost.exe」が CPU を占有しているという仮定で話しを進めます。  
svchost.exe の正体についてはネットで調べてみてください。

この svchost.exe を選択し、右クリックで「プロセスの終了」をするという対策もありますが、これは言わば姑息な手段ですし、面倒です。

より根本的な対策は次のふたつの手続きを実行することです：

- (1) 「コントロールパネル」から「自動更新」もしくは「セキュリティセンター」で「自動更新を無効にする」を選択。  
警告が出ることもありますが無視します。何しろサポートが終了した XP ですから。
- (2) 「コントロールパネル」から「管理ツール」→「サービス」。

「Automatic Update」を選択して右クリック、「プロパティ」をクリックします。  
「スタートアップの種類」で「無効」を選択します。

ここで意外に重要なのが上記の(1)です。せっきく(2)を実行しても(1)をやっておかないと「svchost.exe」がゾンビのように復活して CPU を占有してしまいます。

最後に、ここから先は推測ですが、何故こんな問題が起きたのか？という理由です：

XP のサポートがあったときは、然るべき Windows のサイトとパソコンの XP がやりとり出来たわけですが、Windows のサイトが一方向的に閉鎖された為、これを知らないパソコンの XP が延々と確認リクエストをサイトに送り続けているからではないでしょうか。何しろ OS の自動更新プログラムは優先度が高くて、しかも優先度の変更が出来ません。つまり自動更新プログラムはそれだけ OS にとって重要なプログラムだということです。

本来、マイクロソフト自身が XP の自動更新プログラムに対して必要な処置をすべきだったと思います。

以上